

浜益岳（1257.7m）

平成30年4月21日～22日

CL小山内

SL相馬、西田、藤木

山岸、澤田、水江、藤木(た)、鈴木(徳)、笹山、荒谷、及川、本野、川村、西田(昌)八重樫、門馬、永宮、太田

(21日)

前泊組は8:30岡士別公園集合。途中で夕食のメインディッシュであるタコを仕入れてテン場に到着。今年は雪が多く降ったはずなのだが、残雪は意外に少ないようだ。我々のテン場のすぐ先に日帰りを含めた数台の車が駐車している。炊事は男性が中心だがまだ陽が高いうちから安着が始まる。日が暮れてからの宴会はテント内に移り、8時頃には就寝した。

(22日)

3:00起床。日帰り組(Hさん、Oさん)の2人は4時前に到着。夜を通して遠路移動してきたスタミナには頭が下がる。天気は薄曇りで風はほとんどない。スノーシューで登る予定だったKさんが体調不良のため急きょ断念することとなり、万が一に備えてHさんが付き添いで残ることになった。

5:25、林道をゆっくりと歩きだす。30分ほど歩いて尾根にとりつく。

6:00、C360付近。

6:40、大阪山。浜益御殿、浜益岳が疎林の間から見える。風は微風程度で暖かい。

9:20、偽ピークの奥にある浜益御殿によりやく到着。スキー班はこ



夕食準備



林道を進む

こでシールを外す。以後、シールの着脱を繰り返す。快晴で無風。絶好の春山登山だ。左前方に暑寒別岳が近づいてくる。正面には群別岳が鋭い姿を見せけている。

11:25、予定より30分ほど早くピークを踏んだ。ここで、Y氏の音頭により既に到着していた登山者に皆さんに登別山岳会恒例のヤッホーを振る舞う。あえて感想は聞かなかったが、

一同自己満足のまま下山を開始。ハイマツを踏み抜き体ごと埋まる者もいたが大事には至らなかった。一段降りたところで群別岳を正面に見ながら昼食休憩。

12:25、再び下山開始。効率よくシールの着脱を行いながら下山する。気温の上昇とともにシールは濡れてきたが歩行に影響はなかった。黄砂？のせいかスキーの滑りにむらがあり、多少てこずった。



13:10、浜益御殿。

途中、先行するスキー班が後続のスノーシュー班を待ちながら慎重に下山を続ける。

14:45、大阪山

15:55、テン場に到着。登りも長かったが下りもそれなりに時間かかった。

初めての浜益岳だったが、風もなく、天気にも恵まれて大満足、最高の山行となった。

待機組の二人には TENT を撤収していただき、帰りの時間短縮に

なりました。ありがとうございました。

文責：水江（スキー班）

